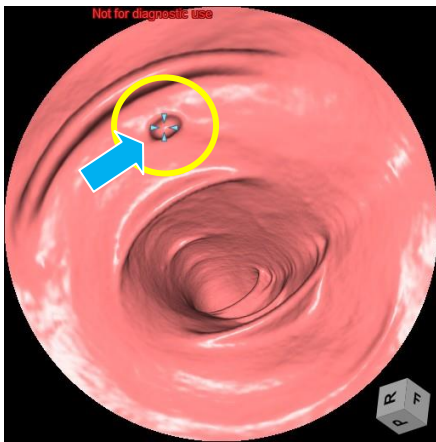


■ ■ 大腸 CT 検査をご存知ですか？ ■ ■

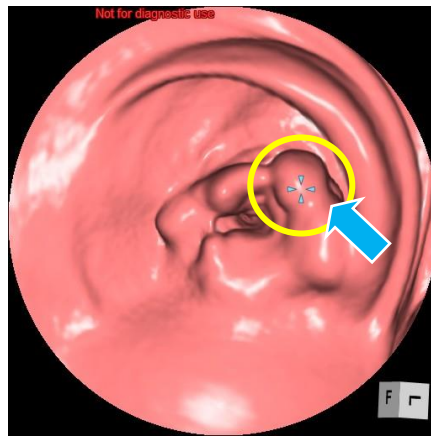
診療放射線科 中村 友哉

大腸 CT 検査は、内視鏡を大腸内に挿入せずに大腸を調べる新しい検査です。肛門から細い管を約 10cm 挿入し、ここから炭酸ガスを注入し大腸全体を膨らませて CT 撮影をします。撮影された情報からコンピューター処理することにより内視鏡のような画像を作成し、大腸ポリープ(写真 1)、癌(写真 2、3)などの診断を行います。

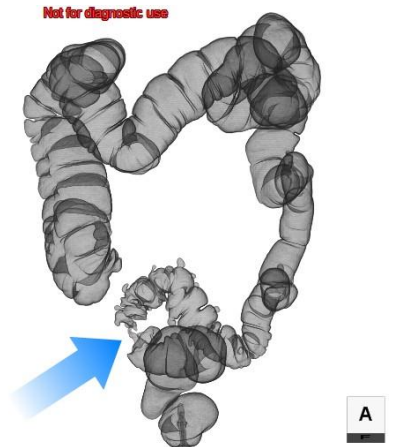
(写真1)



(写真2)



(写真3)



短時間(15分程度)での検査が可能で、内視鏡検査より苦痛が少ないといわれています。

内視鏡検査と比較すると、平坦な病変やごく小さい病変の検出はやや劣りますが、治療が必要とされる 6mm 以上の病変の検出率は、内視鏡検査と同等です。また、腸の口側と肛門側から観察が可能なため、内視鏡では見えにくいヒダの裏側もよくみえます。腸の狭窄や癒着などで内視鏡の通過が困難な場合も、さらに深部の情報を得ることができます。腹部全体を CT 撮影しますので、大腸の形態や大腸以外の臓器についての情報も得ることができます。

ただし、大腸 CT ではポリープを切除することや確定診断を行うことができないため、内視鏡検査などでより詳しくみる必要がある場合もあります。

内視鏡検査に抵抗のある方、大腸の病気は気になるが一度も大腸の検査を受けたことがない方。まずは、大腸 CT 検査を受けてみてはいかがでしょうか？